家賃や光熱費出し合い共同生活

ルームシェア 若者に浸透

経済的負担が軽減

住人同士の交流も魅力

一軒家やマンションの一戸を他人同士が共用して住む「ルームシェア」が、若者を中心に広がり始めている。経済的負担が軽くなるほか、多様な年齢、職種の人と交流したい人にも受けている。首都圏などに比べてまだ浸透度が低いものの、仙台市内でも実際にシェア生活をしている人たちがいる。始めたきっかけやメリットを聞いた。

（夕刊編集部・鈴木美智代）

リビングでくつろぐ入居者。この日は留学生が入居の相談に訪れた＝仙台ゲストハウス

青葉区の会社員松本猛さん＝仮名＝（二九）は五月から、２ＤＫのアパートに、インターネットのルームシェア専用サイトで知り合った男性と暮らしている。

「東京にマンションを持っているが、転勤のため仙台に来ました。家賃を抑えたかったし、友人も欲しかったので同居人を募集しました」。一カ月間で二人から連絡があり、同年代で気の合いそうな人と住むことにした。

松本さんと男性が一部屋ずつ使い、台所、風呂、トイレは共同。四万五千円の家賃と光熱費は折半している。休みが合うと、一緒にドライブしたりもする。

男性の支払いが若干遅れることがあるのは予想外だったが、それでも「干渉し過ぎず、互いにうまくやっている。大体満足しています」と話す。

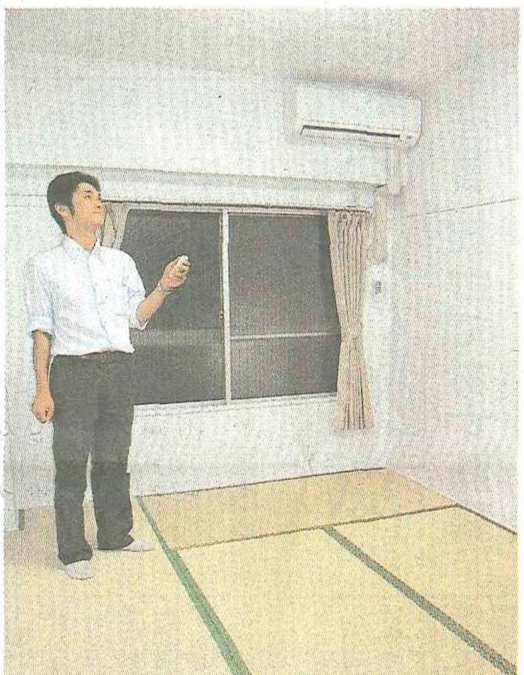
EYE

ルームシェアは、複数の他人が家賃や光熱費を出し合い、共同生活する住形態。学生寮や社員寮、大家の家に間借りする共同下宿などと異なり、立場や年齢によらず、希望者が互いの合意の下で一つの家に暮らすという点が特徴だ。

台所などを共有する分、一人暮らしより家賃を安く抑えられる場合が多く、欧米では一般的になっている。仙台ではまだなじみが薄いが、海外ドラマの影響や同居人を募集するインターネットの専用サイトが複数できたことなどから東京を中心に広まった。

企業が運営するゲストハウスという形式もある。七月、太白区向山にオープンした「仙台ゲストハウス」は、六畳の個室三十室と四人の相部屋で定員三十四人が暮らせる。

リビングや台所、シャワーなどが共有で、家賃は個室が四万三千円から。破格の安さとはいかないが、①光熱費など込み②礼金敷金など初期費用、保証人が不要③一カ月単位で入居可能―といった若者が借りやすい条件を整えた。トラブルが発生しないよう住み込みの管理人も置いている。



仙台ゲストハウスの個室

現在は、社会人や学生など七人が入居する。旅行先の海外でゲストハウスの存在を知ったという専門学校生の村上秀行さん（二二）は「住居費が少なくて済み、いろいろな人と知り合える点が魅力」と満足げ。

英国留学中に最初のシェア生活を経験した宮城大生の石川雅人さん（二三）は「通学に四十分かかるが、家賃の安さと家に誰かがいるという安心感が勝っています」と話す。

同ゲストハウスを運営する不動産業ユアーズ・コーポレーション（東京）は「仙台は地方都市の中でも学生、外国人が多い。ゲストハウスやルームシェアといった概念が浸透すれば、需要を掘り起こせるだろう」と話し、今後も市内に数棟開設する方針だという。

トラブルに注意

価値観の違い／セクハラ行為

適度な距離を保つ

同居人との価値観の違いや誤解からストレスがたまったり、トラブルになったり…。よく知らない他人と一緒に暮らす以上、デメリットやリスクは当然ある。ルームシェアを考える人は、どのような点に注意すれば良いのだろう。

自らの体験から、松本さんは「一緒にいる時間が長過ぎると、問題が起きるのではないでしょうか。適度な距離を置くことが大切です」と助言する。敷金の負担分をどうするかも、あらかじめ話し合っておいた方がよいと勧める。

ゲストハウスでは多人数が暮らすため、細かくルールが決まっていることも少なくない。仙台ゲストハウスでは、入居者以外は敷地内に入れない決まりだ。

ルームシェア専用サイト「ルームメイトカフェ」を管理する石川智也さん（三七）は「帰宅の時間や趣味が違い、コミュニケーションが取れない場合、気まずくなり、トラブルに発展してしまいがちです」と指摘。他人との共同生活であることを理解し、話し合うことが重要とアドバイスする。

さらに「シェアを出会い系と勘違いして、部屋を貸す代わりにセクハラまがいの行為、不当な要求をしてくる男性もいる。『無料でOK、女性のみ』とまで言うような人には気を付けて」と注意を促す。

不動産によっては「居住者は一人まで」と契約で決まっている物件もあるので、確認を。賃貸の責任を負う借り主や連帯保証人に迷惑を掛けないように気を付けよう。

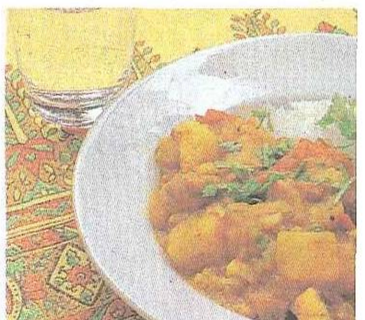
「ルームメイトカフェ」はじめ専用サイトには基礎知識や心構えなども載っており、参考になる。

らいふ

Life

よるごちそうがテーブルい
っぱいに並んで、温かい感
感動し、その行動力に目を
見張りながら、わたしので
ちと話し合い、老人たちの
交流会をつくり、会食の機
を送りたい。

（生活評論家）



【材料４人分】

鶏もも肉２枚、カリフラワ
ジャガ芋２個、トマト２個、
レーンヨーグルト１カップ、
½、ケチャップ大さじ２、
すりおろし各小さじ１、カ
⅓、レモン汁小さじ１、塩
々）、あればクミンシード

【作り方】

①玉ネギはみじん切り、カ
け、ジャガ芋は３㌢角に
にする。鶏肉は大きめ一
てもみ込む。
②鍋にサラダ油大さじ２―
れて熱し、玉ネギを中火
肉を漬け汁ごと入れて２
る。ジャガ芋とカリフラ
マトの半量を加えてから
③落としぶたをして20分ほ
を加え、塩、コショウで
好みで香菜を振る。

九州発―
食卓の向こう側
西日本新聞
創刊130周年記念展

■子どもが作る“弁当の日”
子ども自身が作る“弁当の日”の取り組みを紹介。連載をきっかけに九州を中心とする各地に広がり、全国の実践校は70校を超えました。

■生ごみリサイクルコーナー
「食べ物、つまり命を粗末にする社会で

■西日本新聞創刊130周年パネル
1877年の創刊からの足跡を、九州を中心に、全国そして世界の出来事もに報道写真で振り返ります。197
月「高校生宙を舞う」、96年６月「
ダ・インドネシア航空機炎上」は新聞
賞を受賞。